

瑞雲山善法寺、浄土真宗本願寺派  
1556年（弘治2年）第1世恵善和尚が  
阿戸村に臨濟宗弘通寺派浄光庵を創立。  
1628年（寛永5年）広島寺町に寺院を移し、  
寺号を「善法寺」と改めた。1705年  
（宝永2年）浄土真宗に改宗、1928年（昭  
和3年）第16世至道は仏閣を己斐に建て、  
寺町から移転、1936年（昭和11年）本堂  
建設、現在に至る。

神功皇后が三韓征伐の途上「野立ち」せ  
られた所と言われている。浅野時代はミ  
カンの栽培が行われていた。  
1907年（明治40年）頃、舟入町の太田文  
太郎氏が、かいどうを植えて絶佳園と  
名付けた。山上からの眺望は内海の景と  
花木の美とが相応じて絶佳であった。  
現在では石段が残るのみである。

200年頃、仲哀天皇のとき神功皇后が三  
韓征伐の途上、その船団を率いて己斐の  
「御船着」に到着され松山（後の旭山）  
に登られ野立ちされた。この御船着は現  
在も名残が残っており、旭山の南側の  
山沿いの小道で高須との境界瀬切石より  
100メートル手前辺りから起伏して普海岸  
線だった様相を呈している。

長栄山清照寺西福院 御本尊は十一面観  
音菩薩、並びに淡島大明神、1593年（文  
禄2年）隆譽上人が中島本町に建立する。  
1619年（元和5年）浅野長政公が広島へ  
入封の折、淡島大明神を当山へ奉祀される。  
原爆によって焼滅、1957年（昭和32年）  
己斐の旭山南西山腹に再建する。国の指  
定重要文化財「紺紙金泥宝篋印陀羅尼經  
（965年作）」がある。

320年を経た1778年（安永7年）己斐村  
の人たちが墓を建てて供養した。  
2基あるのは敵味方のためと言われている。  
この墓はいつしか行方不明となっていたが  
1926年（大正15年）に竹倉の中で偶然発見さ  
れた。同年8月に旭山共同墓地に移された。

## 旧石内道の歴史めぐり（己斐橋から旧埴道経由己斐埴まで約3.1Km）

### ⑪瀬切石



己斐村と古江村の境界地点を瀬切石とい  
う。そのいわれは太古のあたりは海洋  
の波打ち際で岩場があり上流から流れ  
てくる流水が岩につきあたり瀬をなして  
いたので名付けられたのであろうと言わ  
れている。  
現在は小さな祠がある。

### ⑫植木屋次郎右衛門の墓



1619年（元和5年）  
紀州から、3代広島城  
主として浅野長政公  
が入府のとき、大阪  
の牡丹屋次郎右衛門  
が牡丹づくりのため  
藩主に従った。  
そして植木の適地と  
して白羽の矢を立て  
たが己斐である。  
しかし、この初代次郎右衛門は大阪へ帰り  
その子が定住した。従ってこの墓は子の1  
代植木屋次郎右衛門の墓であろう。

### ⑬百花園跡と千手観音像



1883年（明治16年）に百花園が創設された。  
桃と梅が多く、四方の風景が素晴らしい。  
特に雪見どころとして有名だった。1885  
年（明治18年）普門山慈眼寺（六角堂）  
と稲荷が建立された。室には初代広島城  
主毛利輝元公が城の守本尊として彫刻し  
たと言われる「千手十一面観世音菩薩像」  
が安置された。この像は現在は新山  
千手観音堂にある。

### ⑭河原中の御前社跡



太古、神功皇后が観音式をしたところと  
言われ、祠と2本の黒松があった。こん  
ぜんさんの黒松と親しまれ、明治の頃、  
この祠を囲むように100メートルくら  
いの輪になって並木をしようとされて  
いる。2本の黒松のうち1本は切られ、  
残りの1本も平成3年頃に枯死してしま  
った。現在は切株をとどめるのみである。

### ⑮蓮照寺



浄土真宗本願寺派、清原山照寺と称す。  
開山は1717年（享保6年）長束村の僧  
玉による。己斐村に一字を建立したのが  
開寺であった。1871年（明治4年）本願  
寺より蓮照寺の称号を、1879年（明治12  
年）寺号の公称を許可された。現本堂は1914  
年（大正3年）建設されたものである。  
鐘は1942年（昭和17年）供出、鐘樓は被  
爆倒壊したが再興されなかった。

### ⑯光西寺



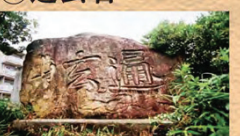
法輝山光西寺 浄土真宗本願寺派  
1704年（宝永元年）に広島の新町西向  
寺の弟子智境が百花園にあった庵寺地  
を再興したと伝えられている。1879  
年（明治12年）光西寺の寺号公称許可、  
1910年（明治43年）中島町の西福寺から  
移転して本堂建設、1942年（昭和17年）  
梵鐘供出、1967年（昭和42年）梵鐘復元

### ⑰庄屋跡



己斐の訪れる偉人であった土井百穀の住  
居跡である。代々の庄屋で母は越智氏出  
自であった。景勝地紅葉谷に面しており、  
丁度己斐村の中央に位置している。紅葉  
谷を愛でながら、頻りに訪れる詩人、風  
流人、旧友と酒を酌み交わし、歌談し、  
議論されたという。越智塚碑がその名残  
りを留めている。

### ⑱通玄石



明の国隠元禪師（日本黄檗宗の開祖）が  
1655年（明暦元年）に己斐の加々桑山（小  
茶臼山）を訪れたとき、その山上からの  
景色が故郷通玄山のそれによく似てい  
たので「通玄山」と銘名、書にしたためた。  
この書を広島藩の家臣の寺西織部信之が  
手に入れ、1674年（延宝2年）頃、小茶  
臼山の自然石に刻した。

### ⑲森の大歳社



字大歳に在る。鎮座年限は不明である。  
御神体は石である。祭神は大歳神で穀物  
の守護神である。1906年（明治39年）神  
社奉告令が公布され、2年後の明治41年  
一村一社として己斐町内の小祠が旭山神  
社に合併された。大歳社の御神体も旭山  
に遷されたが、地元の希望で強固に戻  
された。それ程に地元の信仰心が厚かった。

### ⑳坊僧観音堂



浄土宗、本堂は1532年（天文元年）己斐  
村の石原新三郎が創建、1878年（明治11  
年）再建。このお堂の位置が殿後陣、畑、  
己斐村へ通じる道の交差点のところにあ  
り、高かつ本庄道に通じて広島へ至っ  
ていたので格好の己斐の道路守護の役割  
を果たしていた。

### ㉑滝の観音



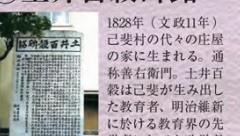
往古より堂宇があ  
ったが古に幸り荒廃、  
1850年（嘉永3年）己  
斐村の越智半右衛門  
が自費で再興、宇流  
が迫らぬ。  
観音堂の傍らに直下  
7mの小滝がある。  
明治から昭和初め  
頃、避暑客や修験者が多かった。  
正式には法道山観音院敬順寺と言ひ、戦前  
には広島新四国八十八ヶ所の第十一番だ  
った。

### ㉒国泰寺



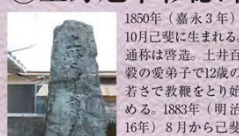
1978年（昭和53年）中区中町より己斐上三  
丁己斐埴近くに移転された。戦前は普願  
寺、広島別院と共に広島3大伽藍の一つ。  
開基は1594年（文禄3年）僧恵理の臨濟宗  
安国寺に始まる。開山は1619年（元和5年）  
僧普照が曹洞宗国泰寺に改めたことによる。  
浅野氏の菩提寺でもあった。境内には浅  
野長政公の墓や恵理、普照、大石良雄の墓、  
歴代各住職、寺西信之等の墓がある。

### ㉓土井百穀碑銘



1828年（文政11年）  
己斐村の代々の庄屋  
の家に生まれる。通  
称善右衛門。土井百  
穀は己斐が生み出し  
た教育者、明治維新  
に於ける教育界の先  
覚者にして大功勞者  
である。1887年（明  
治20年）5月瀬切石  
近くの国道筋に県下  
の有志、子弟が頌徳碑を建立した。没後35  
年を経た1917年（大正6年）5月15日「百  
穀追善會」が町をあげて盛大に行われた。  
その折、石碑も旭山神社下境内に移された。

### ㉔上野旭峯彰徳碑



1850年（嘉永3年）  
10月己斐に生まれる。  
通称は善徳。土井百  
穀の愛弟子で12歳の  
若さで教鞭をとり始  
める。1883年（明治  
16年）8月から己斐  
小学校初代校長に就  
任以来20年間校長を  
勤める。  
明治44年に退職するまでおよそ半世紀の間、  
己斐の子ども達の教育に生涯をさげた。  
1913年（大正2年）1月3日、教え子たち  
が先生の徳をたたえて碑を建てた。

### ㉕橋本調二翁頌徳碑



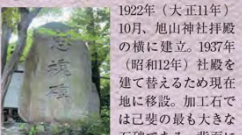
この頌徳碑は1961年（昭和36年）6月26  
日有志によって建立。1884年（明治17年）  
己斐に生まれる。熱血漢で己斐町民全て  
に活力と勇気を与えたものである。己斐  
町消防組にあること16有余年、大正15  
年9月東京で全国消防組連大会があった  
折、昭和天皇から「あの元気の良いもの  
は誰か」と下問されたという。

### ㉖大正天皇御即位記念樹



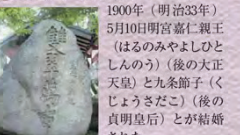
1915年（大正4年）11月10日新天皇（後  
の大正天皇）が即位されたのを記念して  
旭山神社参道の石段八合目あたりのこの  
地に己斐町民が楠を植樹した。  
2015年（平成27年）11月10日に植樹され  
て100年を迎え、己斐で一番の大樹とな  
った。樹回り4.4m

### ㉗忠魂碑



1922年（大正11年）  
10月、旭山神社拝殿  
の横に建立。1937年  
（昭和12年）社殿を  
建て替えるため現在  
地に移設。加工石で  
は己斐の最も大きな  
石碑である。背面に  
は戊申戦役からシベ  
リア出兵までの戦死  
戦病死者8名の氏名  
が銘刻されている。  
GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）に  
より除去命令が出たが、当時の川本連合町  
内会長がコメントを添えて満了した。

### ㉘雙翠萬古の碑



1900年（明治33年）  
5月10日明宮嘉仁親王  
（はるのみやよしひと  
しんのう）（後の大正  
天皇）と九条節子（く  
じょうさだこ）（後の  
貞明皇后）とが結婚  
された。  
己斐村では若いお二  
人の永久の繁栄を  
願って参道の石段を昇り下った少し手前右  
の地にこの「雙翠萬古」の碑を建立した。

### ㉙絵馬堂（旧社殿）



この絵馬堂は現在の拝殿があるところに  
江戸時代1843年（天保14年）に社殿とし  
て建てられたものである。  
1937年（昭和12年）9月、社殿建て替え  
のため現在地へ移設された。己斐町の中  
で最も古い由緒ある建物である。堂  
内には舞臺の絵馬が掲げられている。

### ㉚旭山神社



200年頃神功皇后が松山に上られて野立  
されたとき奉った鯉に大層喜ばれたこと  
から地名を置とし、その由緒から八幡宮  
を勧請し、推定800年頃己斐産土八幡宮  
が誕生した。  
1555年（弘治元年）毛利元就が厳島合戦  
の戦勝祈願に此の社を訪れたとき丁度朝  
日が昇りくるのを見て縁起良いとして旭  
山八幡宮と称された。

## 己斐の歴史年表

| 二〇〇〇年頃 | 神功皇后が黒鯉に大層喜ばれたので地名を「鯉」とした |
|--------|---------------------------|
| 七〇〇一   | 大宝元                       |
| 七二一    | 和銅六                       |
| 一六四    | 長寛一                       |
| 一五五    | 弘長一                       |
| 一五八    | 天正十                       |
| 一六九    | 元和五                       |
| 一六四    | 寛文四                       |
| 一八一    | 明治四                       |
| 一八七    | 明治五                       |
| 一八七    | 明治六                       |
| 一八七    | 明治七                       |
| 一八七    | 明治八                       |
| 一八七    | 明治九                       |
| 一八七    | 明治十                       |
| 一八七    | 明治十一                      |
| 一八七    | 明治十二                      |
| 一八七    | 明治十三                      |
| 一八七    | 明治十四                      |
| 一八七    | 明治十五                      |
| 一八七    | 明治十六                      |
| 一八七    | 明治十七                      |
| 一八七    | 明治十八                      |
| 一八七    | 明治十九                      |
| 一八七    | 明治二十                      |
| 一八七    | 明治二十一                     |
| 一八七    | 明治二十二                     |
| 一八七    | 明治二十三                     |
| 一八七    | 明治二十四                     |
| 一八七    | 明治二十五                     |
| 一八七    | 明治二十六                     |
| 一八七    | 明治二十七                     |
| 一八七    | 明治二十八                     |
| 一八七    | 明治二十九                     |
| 一八七    | 明治三十                      |
| 一八七    | 明治三十一                     |
| 一八七    | 明治三十二                     |
| 一八七    | 明治三十三                     |
| 一八七    | 明治三十四                     |
| 一八七    | 明治三十五                     |
| 一八七    | 明治三十六                     |
| 一八七    | 明治三十七                     |
| 一八七    | 明治三十八                     |
| 一八七    | 明治三十九                     |
| 一八七    | 明治四十                      |
| 一八七    | 明治四十一                     |
| 一八七    | 明治四十二                     |
| 一八七    | 明治四十三                     |
| 一八七    | 明治四十四                     |
| 一八七    | 明治四十五                     |
| 一八七    | 明治四十六                     |
| 一八七    | 明治四十七                     |
| 一八七    | 明治四十八                     |
| 一八七    | 明治四十九                     |
| 一八七    | 明治五十                      |
| 一八七    | 明治五十一                     |
| 一八七    | 明治五十二                     |
| 一八七    | 明治五十三                     |
| 一八七    | 明治五十四                     |
| 一八七    | 明治五十五                     |
| 一八七    | 明治五十六                     |
| 一八七    | 明治五十七                     |
| 一八七    | 明治五十八                     |
| 一八七    | 明治五十九                     |
| 一八七    | 明治六十                      |
| 一八七    | 明治六十一                     |
| 一八七    | 明治六十二                     |
| 一八七    | 明治六十三                     |
| 一八七    | 明治六十四                     |
| 一八七    | 明治六十五                     |
| 一八七    | 明治六十六                     |
| 一八七    | 明治六十七                     |
| 一八七    | 明治六十八                     |
| 一八七    | 明治六十九                     |
| 一八七    | 明治七十                      |
| 一八七    | 明治七十一                     |
| 一八七    | 明治七十二                     |
| 一八七    | 明治七十三                     |
| 一八七    | 明治七十四                     |
| 一八七    | 明治七十五                     |
| 一八七    | 明治七十六                     |
| 一八七    | 明治七十七                     |
| 一八七    | 明治七十八                     |
| 一八七    | 明治七十九                     |
| 一八七    | 明治八十                      |
| 一八七    | 明治八十一                     |
| 一八七    | 明治八十二                     |
| 一八七    | 明治八十三                     |
| 一八七    | 明治八十四                     |
| 一八七    | 明治八十五                     |
| 一八七    | 明治八十六                     |
| 一八七    | 明治八十七                     |
| 一八七    | 明治八十八                     |
| 一八七    | 明治八十九                     |
| 一八七    | 明治九十                      |
| 一八七    | 明治九十一                     |
| 一八七    | 明治九十二                     |
| 一八七    | 明治九十三                     |
| 一八七    | 明治九十四                     |
| 一八七    | 明治九十五                     |
| 一八七    | 明治九十六                     |
| 一八七    | 明治九十七                     |
| 一八七    | 明治九十八                     |
| 一八七    | 明治九十九                     |
| 一八七    | 明治百                       |

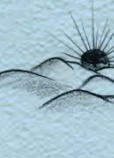
## 己斐音頭

一、己斐の祭りのお祝いに  
己斐の始まり旭山  
八幡神社の名の起り  
伝え聞いている物語り  
音頭に載せて言祝が  
ん

二、己斐のいわれは其のむかし  
神功皇后、出で給い  
三韓征伐、その折に  
鯉を献上、奉る  
縣の主に、始められ

三、時代は下つて戦国の  
動乱騒ぎのその最中  
毛利の殿様、元就公  
臨む戦の必勝を  
出づる朝日に祈念して  
名付け給ひし、旭山  
八幡神社と、称したり

四、ずいとして江戸の頃  
己斐の植木屋次郎右衛門  
上の堤に、始めた  
植木・盆栽、その技術  
明治・大正・昭和の代  
代々伝えて、今の世に  
己斐の植木と、賞さるる



作成年月日 平成28年4月1日

作詞者 田中茂武